

議事

(1) 第4次菊川市男女共同参画プラン令和5年度進捗状況について 資料1-1、1-2、1-3

●避難所運営について

【委員】

避難所の運営において、避難所のリーダーが男女共同参画の知識を持っていないとトラブルになりかねない。例えば、東日本大震災の時にはパーテーションがあるにも関わらず同じ家族だからと利用されなかったり、能登半島地震の際には、女性だけが食事の準備を行うという暗黙のルールがあったりと、避難所運営は地域の方にお任せしているとのことだが、ある程度、市が介入しても良いのではないかな。

【事務局】

いただいた御意見はヒアリングの際に担当課に伝えさせていただく。

●防災への女性の参画について

【委員】

防災に関連して、私はふじのくに防災士をしており、菊川市防災士会にも所属しているが、防災への女性の参画については、防災士会からも毎年依頼をしている。一方で、防災委員として地域で選ばれる人はほとんどが男性というのが実状。男性の防災委員であっても、その防災委員を通して男女共同参画の視点を地域に下ろしていただく体制を市で整えていただく必要があると思う。

●中高生の乳幼児触れ合い事業について

【委員】

中高生を対象とした乳幼児触れ合い事業について、可能であれば復活させてほしい。20代～30代の140名の方に職業選択理由と学校教育に関する調査を行ったところ、中高生の時の職業体験をきっかけに職業を決めたという方が40名近くおり、そのうち乳幼児との職業体験や触れ合い体験等をきっかけに保育士になったという方が8名いた。また、生命への尊さや母性・父性について学ぶ機会については、22名の方が親になって役に立ったと回答しているため、確かに有効な取り組みだと言える。今後、関係機関等にヒアリングを行い、積極的に検討していただけると嬉しい。

【事務局】

担当課からは、以前より新型コロナウイルス感染症も落ち着いてきているとはいえ、やはり保護者側からの反対の声が根強く、廃止に至ったと聞いている。担当課も他にどういったことなら実施可能か検討しているところなので、ヒアリングを通して代替案を検討していきたい。

(2) 令和6年度男女共同参画事業について 資料2、別紙1、別紙2、別紙3

●第4次プランの指標の目標について

【委員】

指標の目標値は一見するとハードルが低いように思われるが、この数値にした理由があると思うので、そもそもなぜこの目標に決めたのか回答できる範囲で教えていただきたい。

【事務局】

各担当課で目標値を決定したため、当時の経緯等も踏まえてヒアリングにて確認する。

●中高生への男女共同参画啓発事業の廃止理由について

【委員】

保護者から乳幼児との触れ合いについて心配する声が多数寄せられたので廃止にしたということだが、否定的な意見があったからといっていきなり廃止にするというのはどうかと思った。例えば、中高生が作成した人形をプレゼントしに行くなど、廃止になる前に何かできなかったのかヒアリングを通して確認していただきたい。

【事務局】

実際は児童館が実施主体となっている事業で、担当課と児童館で協議を重ねた結果、児童館としてはもう協力いただけないということになったと聞いている。詳細についてはヒアリングで再度確認する。

【委員】

良い事業なので続けていただきたいと思う反面、子どもや親の危機管理という点からすると親の気持ちも理解できる。立場によってとらえ方が違うので、別の方法で乳幼児との触れ合いができる企画があればいいと思う。廃止は担当課としてはやむを得なかったのではないかなと思う。

【委員】

幼児などに対しては、絵本の読み聞かせなど様々な取り組みをしていると思うが、中高生に対する取り組みも非常に大事だと思う。多様性の時代の今、中高生自体がクラスメイトなど身近に多様性がある。その中で男の子だから、女の子だからと縛られるのではなく、あなたはあなたのままでいいというメッセージを伝え、自分らしく歩んでいけるようなアプローチが重要となる。何かそういった手立てを考えていただきたい。

【アドバイザー】

園児への読み聞かせを中高生が行ったらどうか。乳幼児を集める必要がないし、中高生にとって表現力を磨く機会にもなる。また、多様性について描いた良い絵本を選んでいるので、中高生にも響くと思う。

【委員】

若い世代に限らず、年配の方に対する啓発事業があってもいいのではないかなと思った。

【委員】

中高生が男女共同参画のどんな取り組みをしたいかという視点に着目すれば、絵本の読み聞かせに限らず、もっと選択肢が広がるのではないかなと思う。

●小学生への職業講話について

【委員】

「仕事は自分のしたいところでいいんだ」という小学生の感想は、まさに求めている感想だと感じた。また、6年生になると「男女に限らず〇〇さんはこういう人だなと決めつけていた」と少し大人に近づいた感想になり、高学年を職業講話の対象にして良かったと感じると同時に、中学生に対して行っても良いのではないかなと思った。だからこそ残念なのが希望制ということ。非常に良い取り組みなので、全校で時間が取れたら良い。

【委員】

男女は見た目も違うし、性差もある。男女で区別するわけではないが、百人いたら百様でそれぞれ違いはあるのだから、区別しなければならないところは区別する必要がある。子どもたちも多様性を理解する機会を平等にもらえるようにしたい。その結果として、男女平等につながればいいと思った。

【委員】

多様性を理解すればいじめもなくなるかもしれない。

【事務局】

職業講話について、昨年度は希望が1校のみだったため、今年度は次年度のカリキュラムが決まる前の12月と年度が変わった4月の校長会で周知を行ったり、組合立の牧之原小学校にも説明に伺ったりした結果、3校から希望があったところである。また、中学校に入ってから職業について考え始める機会があるので、小学校高学年を対象に入れたが、教育委員会からは中学生も対象に入れていいのではないかと意見をいただいたこともある。それらを踏まえて今後の事業に活かしていく。また、事務局としては職業講話の講師役になっていただける方が少なくて苦労しているので、紹介していただけると嬉しい。

【委員】

市から講師に対して感謝状みたいなものはないのか

【事務局】

感謝状ではないが、毎年子どもたちの感想を添えてお礼をさせていただいている。

【委員】

民間企業として何かメリットがあると協力してもらえないかと思う。

【事務局】

昨年度は、男女共同参画事業のPRチラシの中でご協力いただいた方々を紹介させていただいた。

【委員】

ライブで話を聞くのが一番良いとは思いますが、映像を撮っておけば講師が少なくとも対応できるのではないかと。また、クイズを出すなど工夫して話をしてもらえれば、子どもたちも考えることができると思う。

【アドバイザー】

VTRで対話をさせるというパッケージにすればどこでも実施できるし、取り入れやすくなると思う。また、企業を巻き込むにはやはりメリットが大事だと思う。以前の職場で職場体験を受け入れたとき、非常に職場が活性化した。自分の仕事を一生懸命小学生に教えるということが社員や組織を活性化するというメリットとなる。中高生の乳幼児触れ合い事業も保護者のメリットが何かということを考えるのが大事かもしれない。この事業は何のために実施して、あなたにとってどういった意味があるのかという視点を持っていると、比較的受け入れてもらいやすいのではないかとと思う。

【委員】

汎用性は大事だと思う。また、菊川市に来てから市民の共生意識が高いことを実感している。委員の皆さんの意見も温かい意見が多く、だからこそ男女共同参画の活動も受け入れられやすいと思う。

【アドバイザー】

先ほど菊川市は雰囲気が良いという話があったが、雰囲気は仕事力という言葉がある。雰囲気が良い人は仕事ができるし、良い仕事をしている職場は雰囲気が良い。それ

は、誰もが自由に意見を言えて否定されないからこそ、失敗を恐れずチャレンジしやすいということである。菊川市は雰囲気が良いということは、アプローチをしやすく変わっていけるチャンスでもある。是非皆さんの手でより良いまちをつくってほしい。